

平成 29 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス						
教科目名	英語特講 2	担当教員	菅原 崇			
学年学科	専攻科 1 年 全専攻	後期	必修	1 単位(学修)		
学習・教育目標	A-1 10%	C-2 90%	JABEE 基準 1 (1) : (a) (f)			
<b>授業の目標と期待される効果：</b> TOEIC425 点以上獲得を目標に、e-learning 教材『TOEIC 学習システム』を活用し、英文法および語彙の知識を深め、英語コミュニケーション能力を高める。具体的には以下の項目の向上を目指す。 ①英文法の知識を深める ②語彙を増やす ③リーディング能力を高める ④ライティング能力を高める ⑤リスニング能力を高める		<b>成績評価の方法：</b> 期末試験 100 点+小テスト・課題 100 点 合計して得点率 (%) で成績をつける。成績評価には、教室外学修の内容も含まれる。 <b>達成度評価の基準：</b> 授業にて行った TOEIC 対策の問題と同レベルの問題を試験で出題、6 割以上の正答レベルまで達していること。 ①コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の度合いを測定する試験で 6 割以上できる。 ②コミュニケーションに必要な語彙の知識の獲得の度合いを測定する試験で 6 割以上できる。 ③コミュニケーションに必要なリーディング能力の度合いを測定する試験で 6 割以上できる。 ④コミュニケーションに必要なライティング能力の度合いを測定する試験で 6 割以上できる。 ⑤コミュニケーションに必要なリスニング能力の度合いを測定する試験で 6 割以上できる。				
授業の進め方とアドバイス：辞書、リスニングに必要なイヤフォン、未知の単語熟語などをメモするノート（および筆記用具）を毎回必ず持参すること。持参しない場合は履修の資格なしとみなす。 授業中行った TOEIC 模擬問題の確認や単語の修得を家庭学習として毎回行い、次の授業に臨むこと。						
教科書および参考書：e-learning 教材『TOEIC 学習システム』 『新 TOEIC TEST 出る順で学ぶボキャブラリー900』（講談社） 『いきなりスコアアップ! TOEIC(R) テスト 600 点英文法集中講義』（日本経済新聞出版社） その他担当教員が適宜配布するプリント						
授業の概要と予定：後期			教室外学修		AL のレベル	
第 1 回：単語テスト			これまで学習した内容の復習		C	
第 2 回：TOEIC 学習システム			これまで学習した内容の復習		A	
第 3 回：TOEIC 学習システム			これまで学習した内容の復習		A	
第 4 回：単語テスト			これまで学習した内容の復習		C	
第 5 回：単語テスト			これまで学習した内容の復習		C	
第 6 回：TOEIC 練習問題			これまで学習した内容の復習			
第 7 回：TOEIC 練習問題解答ならび解説			これまで学習した内容の復習			
第 8 回：TOEIC 学習システム			これまで学習した内容の復習		A	
第 9 回：TOEIC 学習システム			これまで学習した内容の復習		A	
第 10 回：TOEIC 学習システム			これまで学習した内容の復習		A	
第 11 回：TOEIC 学習システム			これまで学習した内容の復習		A	
第 12 回：単語テスト			これまで学習した内容の復習		C	
第 13 回：単語テスト			これまで学習した内容の復習		C	
第 14 回：TOEIC 学習システム			これまで学習した内容の復習		A	
期末試験						
第 15 回：期末試験解答解説						

評価（ループリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の割合を測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の割合を測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の割合を測定する試験で6割未満である。
②	コミュニケーションに必要な語彙の知識の獲得の割合を測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要な語彙の知識の獲得の割合を測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要な語彙の知識の獲得の割合を測定する試験で6割未満である。
③	コミュニケーションに必要なリーディング能力の割合を測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要なリーディング能力の割合を測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要なリーディング能力の割合を測定する試験で6割未満である。
④	コミュニケーションに必要なライティング能力の割合を測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要なライティング能力の割合を測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要なライティング能力の割合を測定する試験で6割未満である。
①	コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の割合を測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の割合を測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の割合を測定する試験で6割未満である。